

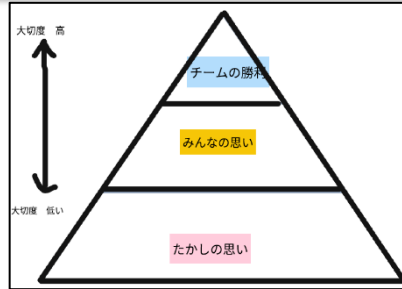
第56回福岡県小学校道徳教育研究大会が立石小学校で開催されました（11月17日）

県内から約190名の参加があった本大会では、「自己の生き方についての考えを深める子どもを育てる道徳科学習指導」のテーマの下、多様な感じ方や考え方を引き出すための効果的なICT活用により、授業の中での対話が深まりました。ここでは、4つの活用例を紹介します。



3年生「ぼくのボールだ」(公正、公平、社会正義) 授業者 味坂小学校 太田 康博 先生

休み時間の遊びに関する自分の優先順位をピラミッドチャートで可視化し、その理由を交流しました。「一人でも楽しくないと全員が楽しくない」「誰とでも仲良く遊ぶために違いをつけてはいけない」等の対話活動を通して、公正、公平に接していくことの大切さに気付きました。



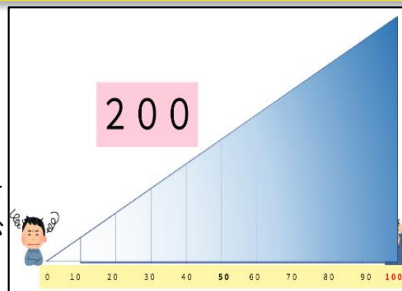
「今日の学習で」の書き方

- ① [今日の学習で大切なこと、心]
今日の学習で大切な心は、人それぞれ差別しなくていいこととです。大切な事は、人の気持ちを考えることです。
- ② [今の自分・これまでの自分]
いままでは、だれにでも公平にしていなかったのが今度からは、ひとさべつしないようにしたいです。
- ③ [これからの自分・なりたい自分]
人差別しない人間になりたいです。

自分の優先順位を可視化するピラミッドチャート(右)と振り返りシート(左)

4年生「新次のしょうぎ」(正直、誠実) 授業者 立石小学校 小柳 一也 先生

不正を行った新次の苦しさを心情メーターで可視化し、その理由を交流しました。「正直に言わないとモヤモヤが取れない」「ずるをしたら相手に信用されなくなる」等の対話活動を通して、正直に生活するよさを明らかにし、過ちは素直に認め、自分の良心に正直になることの大切さに気付きました。



【これからの自分は】
これからの自分は、ずるをせずにやりたいと思います。やってしまったら、その相手に正直に「ずるをした」と言おうと思います。

【今の自分は】
今の自分は、ゲームとかするときに、ずるをしたことがあります。わけは、勝ちたいと思ったからです。

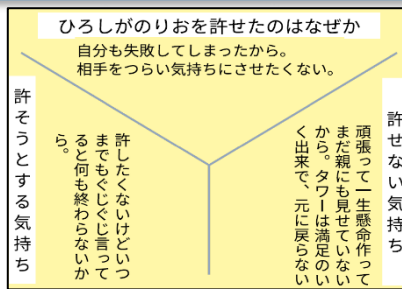
【今日の学習で大切な心】
今日の学習で大切な心は、ずるをせず、自分の気持ちに正直に言うことが大切なことだと思います。もしも、ずるをしてしまったら、素直にあやまることが、大切です。

【友達の見解にさんせいなるほど・なつく】
友達の、正々堂々の意見にわたしはさんせいです。わけは、正々堂々としなくて面白くないからです。

心の苦しさを可視化する心情メーターと(左)と振り返りシート(右)

5年生「折れたタワー」(相互理解、寛容) 授業者 御原小学校 田中 佑磨 先生

大切にしていたタワーを壊された時の気持ちをYチャートで整理し、ひろしが許そうとした理由やそのよさを交流しました。「自分だって失敗したことがある」「相手につらい思いをさせたくない」等の対話活動を通して、相手の思いを考え、広い心で許すことの大切さに気付きました。



【これからの自分は】
今は自分ももしこうなったらと考えると許そうと思った。相手の気持ちを考える気持ちを持つと思った。

【今の自分は】
許したくない気持ちもあったけど頑張って許す決心だった。せめられたら相手がダメな事をしたときせめてやろうと思っている。

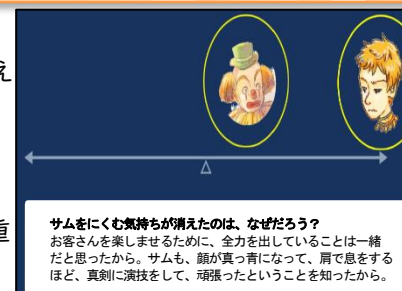
【今日の学習で大切な心】
広い心 許せる心 自分が助けてもらったら嬉しいから友達も許す心

【友達の見解にさんせいなるほど・なつく】
許したくないという気持ちの人が多かったけど理由を聞くのがなかったからその言葉が多くて考えがいろいろあると思った。

気持ちを整理するYチャートと(左)と振り返りシート(右)

6年生「ブランコ乗りとピエロ」(相互理解、寛容) 授業者 東野小学校 大山 千裕 先生

ピエロとサムとの心の距離を心の距離図で可視化し、ピエロがサムを憎む気持ちが消えた理由を交流しました。「サムはサーカス団のために努力をしていた」「サーカスを成功させたい気持ちは自分と同じ」等の対話活動を通して、自分と異なる意見や立場を尊重する寛容な心の大切さに気付きました。



【これからの自分は】
相手の思いを知ろうとし、考えを深め、広げていきたい。喧嘩した時には相手にも自分の思いを知ってもらい、前よりもいい関係にできるようにしたい。

【今の自分は】
自分と意見が合わない人などはあまり関わろうしなかった。また、相手の考えを知ろうしなかった。

【今日の学習で大切な心】
相手の思いを知ろうとする心 お互いに理解し合おうとする心

【友達の見解にさんせいなるほど・なつく】
サムなりに周りのことを気にかけていた。人それぞれのやり方がある。

心の距離を可視化する心の距離図と(左)と振り返りシート(右)

☆振り返りシートについて☆

終末段階において、「どのようなことが大切と分かったか」(自我関与性)、「友だちのどのような考えがよかったか」(相互作用性)、「これからどのようなところを伸ばしたいか」(未来志向性)の3つの観点から、発達段階に応じたシートを活用して、記録として蓄積し、自己のよりよい生き方に向けた思いや願いを自覚できるようにしています。

豊かにつながり合う心を育む 立石小学校の教育活動 ～子ども主体のICT活用による対話志向の表現活動を通して～

教育長 秋永 晃生

福岡県小学校道徳教育研究大会では、全体講師の福岡教育大学 青木晃司先生から、「6学級とも、子ども達の学ぶ意欲の高さは、特筆すべきもので見事だった。」と称賛いただきました。立石小の子ども達は、学習活動を心から楽しんでおり、併せてこの2年間で学力も極めて向上しています。

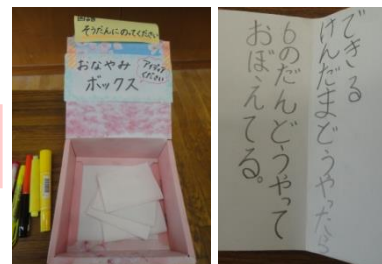
どうしてこのような豊かにつながり合い、意欲的に学ぶ子ども達の姿が実現できているのか……、小郡市学校訪問の際に感じた特長的な取組をいくつか紹介したいと思います。

◆ 子どもの思いを大切に学習目的につなぎ対話への意欲を高める。

「忘れものをなくすためにはどうしたらいい？」という話題で話し合っています。事前に「おなやみボックス」で子ども達の悩みを提出してもらい、それをタブレットを活用した対話活動へとつながっていました。「寝る前に準備する」「メモをして確かめる」等、実感あるアイデアが出され話し合いが盛り上がっていました。



2年生国語「よさを見つけながら話し合おう」



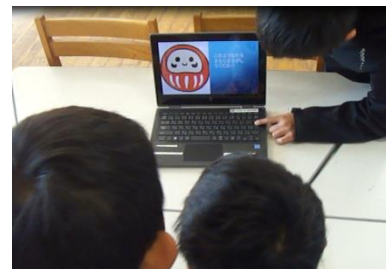
「おなやみボックス」とメモ

◆ 6年生が1年生に縦割り交流活動での遊び方をプレゼンして伝える。

ゲームに入る前に6年生が自作のプレゼンで遊び方や気をつけることを教えていました。右の写真は「だるまさんをさがせ」のゲームの前に、「このようなだるまさんをさがしてください」とタブレットを使って教えている様子です。「教室は走らない」「人をおしてはいけない」等の、安全上の注意も丁寧にプレゼンで伝えていました。



「ゲーム」でふれ合う1年生・6年生



「遊び方」を自作のプレゼンで教える

◆ 「わかりやすさ」「相手意識」を大切に主体的表現の積み上げ。

表現作品がどの学級でも大切にされています。「メロンパン」と題した写真入りの詩には「外はカリカリ中はふわふわの表現がおいしそうだなと思いました。『繰り返し』と『連』を使ってとてもいいと思います。」という友達からのコメントが付してありました。学級の温かさが伝わります。こうして子ども達は自信を高め、読み手を意識し主体的表現を生み出していきます。



給食委員の児童が作った秋の食べ物紹介



作品には友達が付箋でよさをコメント

こうしたICT活用による対話志向の表現活動の『基盤』として、例えば、タイピング検定を毎週実施、毎回のタイピング記録を見える化し共有（児童：日本地図を色塗り 教師：折れ線グラフ）、道徳科では共通の振り返りシート（スタディログ）を使用、保護者もタブレットを使う場を設定、学年ブロック会での情報共有等、先生方自身がつながりあって共通実践されています。

そしてなにより、立石小のよさとして感じたことは『**子どもを大切にほめて伸ばす**』という意識を教職員一人ひとりがしっかりと持たれていることだと感じました。

